

べっふの文化財

No. 25
平成6年3月

— 別府市の近代化遺産 —



竹瓦温泉の玄関

別府市教育委員会
別府市文化財調査員会

はじめに

〈近代化遺産について〉

従来“文化財”といえば、いわゆる古い文化遺産を対象としていた。文化財保護法や別府市文化財保護条例には年代による区分は明記していないが、文化財の価値はある程度の時間を経過しないとその価値判断が困難なことから、必然的に江戸時代以前の物件を指定してきたところである。例えば大分県内の国・県指定有形文化財をみると、446件（平成3年3月31日現在）中、明治時代以後の指定物件は僅かに2件しかないことからその事がうかがえる。

ところが、近年「近代化遺産」というものが注目されることとなった。これは日本が近代化する上で、欠くことのできない重要な役割を果たした文化遺産のことである。大分県では平成5年度に文化庁の補助事業で「大分県近代化遺産総合調査」を実施しており、具体的には江戸時代末期から第2

次世界大戦終了時までには、大分県の近代化のために造られた製糸などの産業関係、駅舎や石橋などの交通関係、発電施設などの土木関係、その他教育・文化等にかかわる構築物、及びこれらと一体となった施設や備品を調査対象としている。

別府市は、戦災を受けていない上に、都市の特色として文化や観光、温泉や医療の分野で他市町村に見られない構築物が数多く残存している。

しかしながら、浜脇高等温泉のように、更なる近代化のためにすでに消滅した構築物も数多くあり、現在残されている構築物もいつ壊される運命にあるか判らない。したがって、これらの構築物を調査し、現物保存あるいは記録保存することは、現代の我々の重要な責務であると痛感する次第である。

（別府市教育委員会）

別府市中央公民館

所在地：上田の湯町 6-37

所有者：別府市

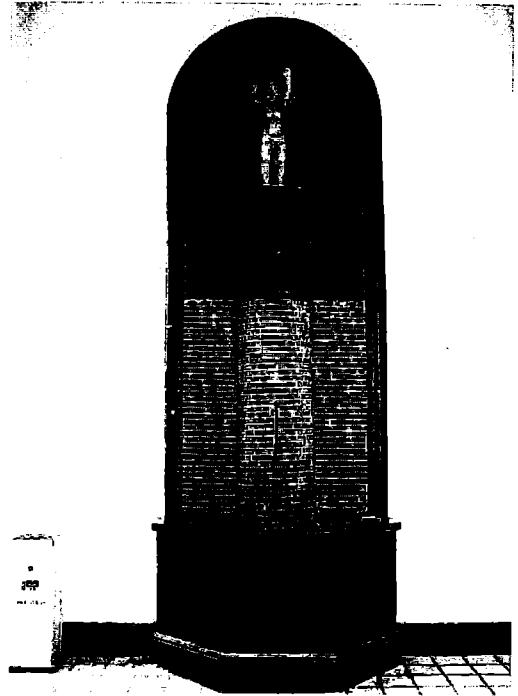
建設年月日：昭和2年1月14日起工

昭和3年3月28日竣工

当時の別府市長神澤又市郎氏は泉都別府に公会堂がないのは一大欠点であるとして、市公会堂建設に着手した。近代ドイツ復興式に和風を加味した建物は、通信省技師吉田鉄郎氏の設計によるもので、別府市技師池田三比古氏が現場を担当した。建築経費は、429,730円90銭（用地買収100,000円、本工事225,683円、附帯工事9,016円、電気工事27,488円、衛生給水浄化装置工事11,271円、換気装置工事4,460円、リフト工事1,951円、講堂固定椅子14,500円、家具カーテン18,300円、庭園費1,271円90銭、雑費及人件費15,790円）であった。

昭和24年からは中央公民館として利用されており、外観は正面の階段玄関が撤去されているものの、その他はかなり当時の面影を残している。

別府市の市民文化の向上に寄与した先駆的建物で、現在も別府市の教育文化の中心的役割を果たしている。



▲ 当時の面影を残す水洗場



▲ 建設当時



◀ 現在

京都大学理学部付属地球物理学研究施設

所在地：野口原3088番地の1

所有者：京都大学

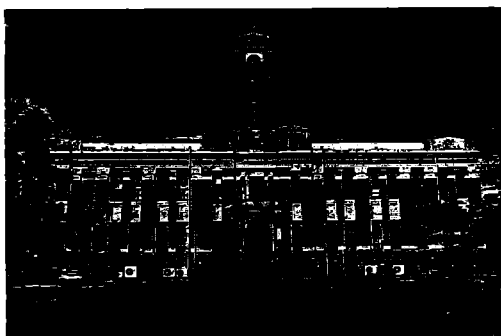
建設年月日：大正12年12月竣工

大正13年1月26日研究業務開始

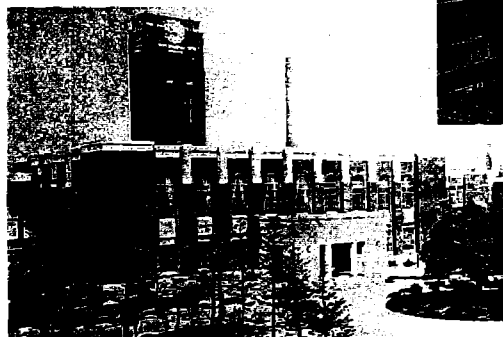
構造：煉瓦造地下室附二階建

同施設は地球全体の気象学、海洋物理学、地質学、地震学等の研究を目的とし、大分県並びに別府町より土地の提供を受け京都大学が建設。設計は永瀬狂三、建築費は約20万円であった。

現在の敷地面積は22,410㎡、建坪512㎡、延床面積1,412㎡で、外観、内部とも建設当時とほとんど変わっていない。



▲現在の全景



◀建設当時の全景



▲ウィーヘルト地震計

レンガホール

所在地：末広町1-3

所有者：別府市

建設年月日：昭和3年12月23日

構造：鉄筋コンクリート2階建

旧通信省別府郵便局電話分室として、吉田鉄郎氏の設計により建設。

昭和40年に別府市が買収し、別府市水道局、別府市役所第二庁舎、同南部出張所等として利用された。平成3年4月1日に改修され、レンガホール（トレーニングルーム、会議室）として利用されている。

ム、会議室）として利用されている。



▲現在の正面

朝見浄水場

所在地：朝見2丁目、乙原

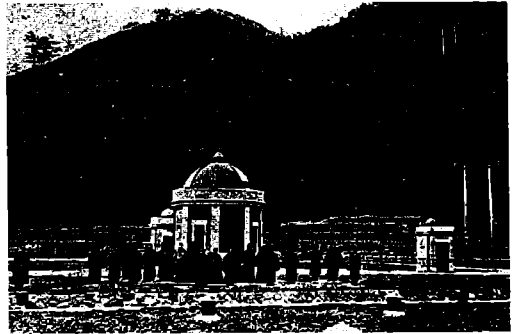
所有者：別府市

建設年月日：大正3年7月26日起工

大正6年3月末日竣工

別府の上水道の歴史は、明治38年8月22日に別府町会（当時は別府町）に上水道敷設工事企画を諮問したことに始まる。大正2年7月11日に内務省より許可が下り、工事総額362,140円（町税26,740円 町債265,000円 県費補助64,900円 郡費補助3,000円 雑収入2,500円）にて着工した。当時は乙原川、鮎返川を水源としていた。

現在も朝見浄水場内には「天日乾燥床」「集合井室」、乙原川には「貯水池」、朝見神社横には「量水室」などが残されている。



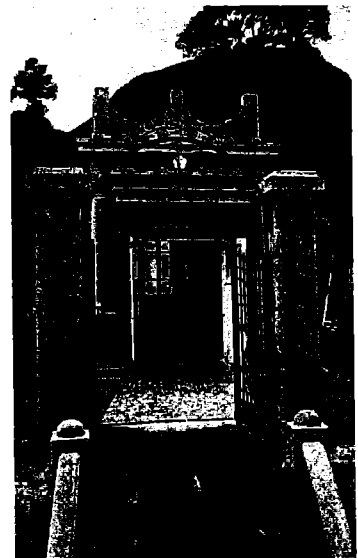
▲建設当時



▲昭和40年頃の全景



現在の集合井室▶

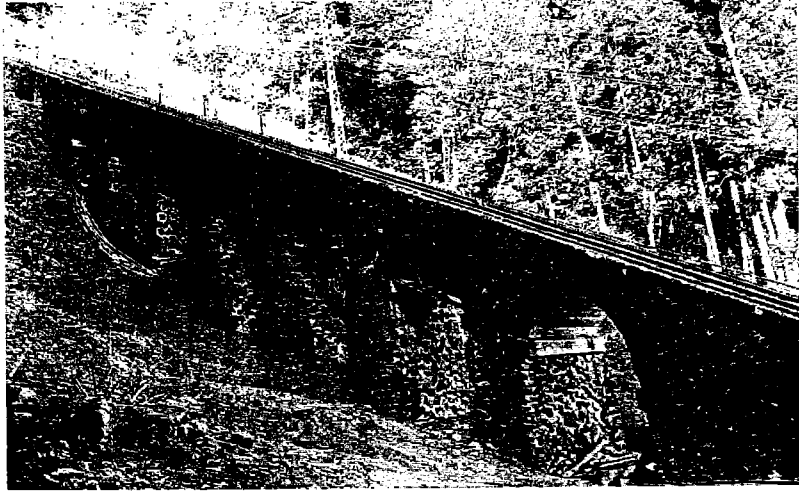


▲量水室内部



▲現在の乙原貯水池

ラクテンチ ケーブルカーの道床



▲現在のケーブルカーの道床

所在地：乙原

所有者：別府国際観光株式会社

建設年月日：昭和4年8月31日

構造：コンクリート造、一部石造

ケーブルラクテンチは、別府鉦山（木村商事、明治36～大正13）のあとに、総工事費15万円と600日を費やして「ケーブル遊園地」として開園。

ケーブルカーの機器は全てスイスから購入、工事はスイスのギゼラインベルン社に発注、同社のE・リーゼン技師が工事を担当。

昭和16年、ラクテンチは小倉造兵衛療養所として接收され、さらに19年5月に鉄材

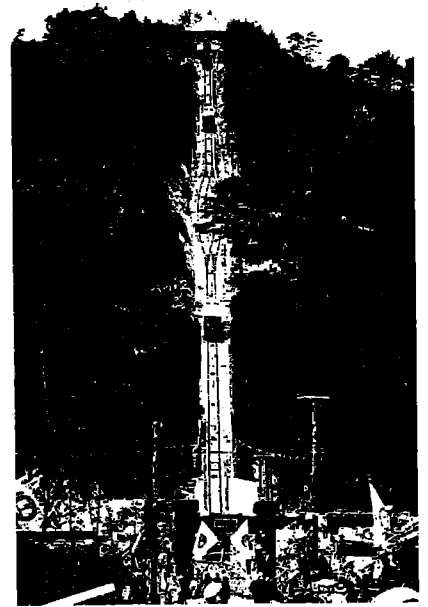
供出命令を受け、ケーブルカーの線路、モーターを撤去された。

昭和25年6月15日、別府国際観光株式会社が「ラクテンチ」と改称し再開園、現在に至る。

ケーブルカーは全長300メートル、勾配約30度で、七連アーチの石橋を含む道床が、開園当時のまま今も残されている。



▲初期のケーブルカーと道床



▲開園当時のケーブルカー全景

竹 瓦 温 泉

所在地：元町16-23

所有者：別府市

建設年月日：明治12年

大正2年改築

昭和13年7月5日改築

構 造：木造2階建瓦葺

公営の温泉場として工事費6,259円にて創設。浴槽は22ヶ所を男女等分に区割し、それぞれ泉浴1、砂湯1、臥湯9を有している。当時は「乾液泉」といわれていた。竹瓦温泉といわれるようになったのは大正2

年の改築からである。

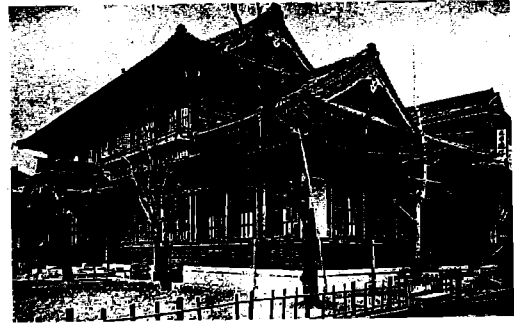
現在も別府の繁華街にあり、別府を代表する市営温泉として多くの市民や観光客に利用されている。



▲大正期



▲現在



▲改築後

浜 田 温 泉

所在地：亀川浜田町3-21

所有者：別府市

建設年：明治30年頃

昭和10年改築

構 造：木造2階建

明治30年頃に温泉が発見され、木造2階建の温泉場が建設されたといわれる。昭和10年に「宮造り」の建物に改築され、現在も市営の共同温泉として、また2階部分は町内公民館として使用され、地区住民に親しまれている。



▲現在

東別府駅 (旧浜脇駅)

所在地：浜脇1丁目15-35

所有者：JR九州

建築年月日：明治44年7月16日

構造：木造平屋建

明治40年7月1日に国有化される以前の日豊線は、明治34年9月3日までに豊州鉄道会社がすでに門司・宇佐駅(現柳ヶ浦駅)の営業を行っていた。帝国鉄道庁は明治41年5月16日より宇佐駅以南の鉄道敷設工事を開始した。亀川駅、別府駅は明治44年7月16日、浜脇駅は44年11月1日の開業である。

現在の東別府駅は部分的な改修はあるものの、当時の駅舎がそのまま残っており、大分県下で最も古い駅舎といわれる。また、ホームの下側に残されている開業当時の山家地区に通じる隧道は、今も人々に利用されている。



▲ホーム下の隧道



▲大正6年



◀現在

野口病院

所在地：野口中町6-33

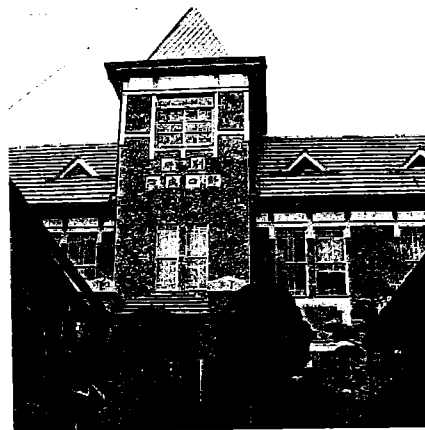
所有者：医療法人野口記念会

建設年月：大正11年7月

構造：木造2階建

甲状腺治療の権威「野口雄三郎氏」を院長に、石炭王佐藤慶太郎の資金協力により診療所、病室として建設。

昭和61年に内部を全面改修したが、外観は当時の姿を残している。現在は管理棟として使用。



◀現在

中山荘

所在地：山の手町9-17

所有者：関西興業株式会社

建設年月：大正9年5月

構造：木造2階建

この洋館は、軽井沢に旧華族や財界人の別荘建築を数多く手がけたアメリカ屋の設計施工によるもので、別府市には数少ない大正時代の洋館である。



▲現在

平尾邸

所在地：浜脇2丁目8-7

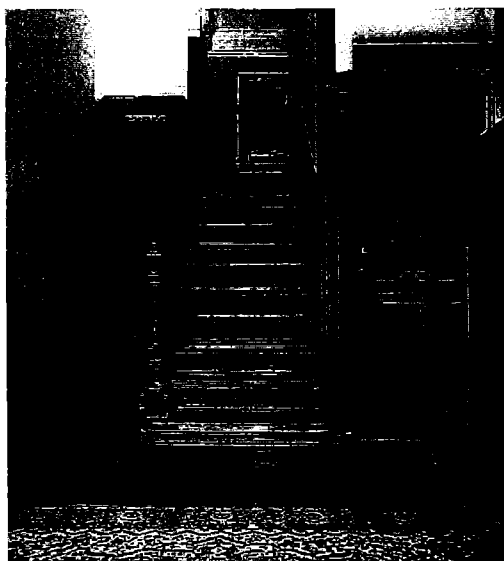
所有者：平尾合資会社

建設年：大正4年

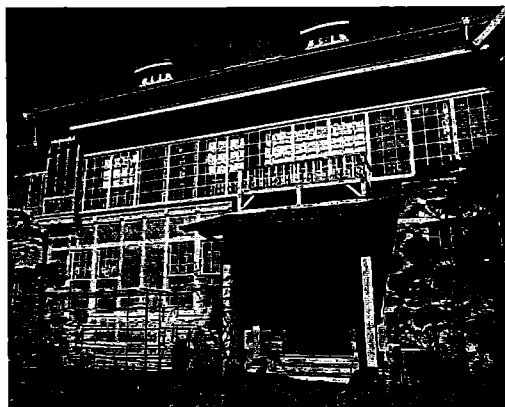
構造：木造2階建

別府銀行頭取の平尾謙平氏が接客のために建設した洋館で、現在は平尾家の自宅として使用されている。

外観はもとより、室内の天井のレリーフ



▲玄関内部



▲全景

や家具調度品なども当時のまま残されている。

松下金物店

所在地：元町1-22

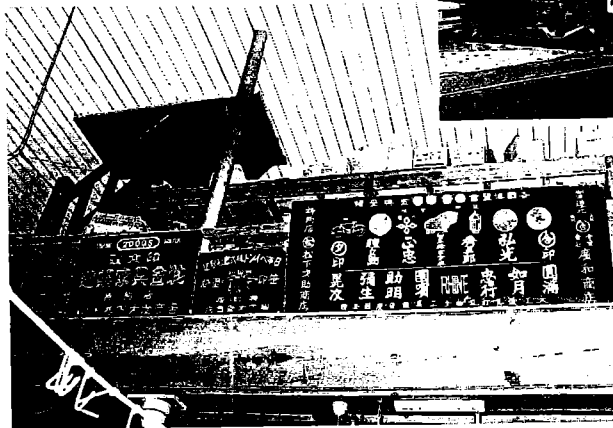
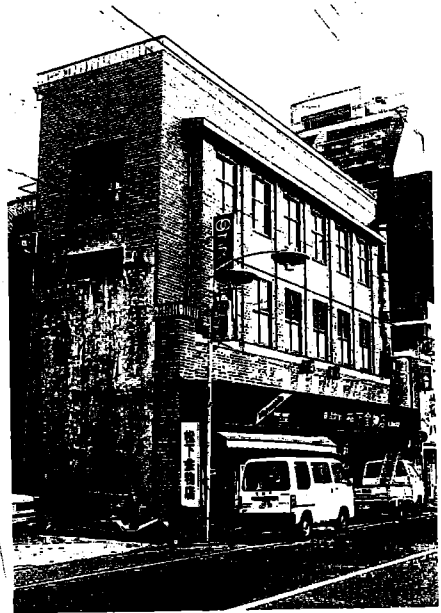
所有者：松下伝三郎

建設年：昭和4年

構造：木造3階建

建設当時より金物店として使用されている、別府では殆ど残されていない商業関係の近代的建造物である。

内部には、看板やウインチなど当時のまま残され、現在も使用されている。



▲内部の看板

[編集協力] 京都大学理学部附属地球物理学研究施設
別府国際観光株式会社
JR九州・東別府駅
野口病院
関西興業株式会社、末松千里
平尾浩
松下金物店
別府市

[参考文献] 別府市誌（昭和8年版）
ラクテンチ物語
市報べっふ

[参考資料] 別府市立図書館所蔵写真

[文 責] 別府市文化財調査員

後藤武夫

入江秀利

小玉洋美

竹長賢治

土屋公照

別府市教育委員会 社会教育課